

# いちごを加害するオンシツコナジラミに対する ラノーテープの防除効果

## 1. 試験のねらい

いちごの重要害虫であるオンシツコナジラミを対象として、本ぼへのラノーテープ（ピリプロキシフェンテープ剤）設置による防除効果を明らかにする。

## 2. 試験方法

(1)試験場所：農業試験場栃木分場 ビニルハウス

(2)耕種概要：品種；とちおとめ 定植；平成 13 年 9 月 11 日

畝幅 60 cm×3 列 2 条植え 株間 25 cm

(3)区 制：1 区 1 棟（1a、約 500 株）， 反復なし

(4)処理方法：ラノーテープは、1a あたり 60m（1 畝 1 本）を畝上（草丈から 10～20 cm）に横断幕状に設置した（写真－1）。設置期間は平成 13 年 9 月 21 日から栽培終了時までとした。対照区は化学農薬のみでオンシツコナジラミ防除を行った（表－1）。

(5)調査方法：ハウス内から、連続する 25 株を 4 カ所（計 100 株）選び、株全体に寄生するオンシツコナジラミ成・幼虫数を調査した。調査は平成 13 年 9 月 28 日から平成 14 年 4 月 25 日まで 7 日間隔で実施した。

## 3. 試験結果および考察

(1) 試験区では、ラノーテープを設置したことにより、4 月下旬までオンシツコナジラミは低密度であった（図－1）。

(2) 対照区では、オンシツコナジラミに効果のある殺虫剤を 3 回散布したが、オンシツコナジラミの密度を長期的に抑制することはできず、成虫・幼虫ともに増加した（図－1）。

以上の結果から、ラノーテープを本ぼに設置することによって、長期間にわたりオンシツコナジラミの発生を低密度に抑制でき、殺虫剤の大幅な削減が可能であると考えられた。

また、ラノーテープは、本試験のデータ等により平成 15 年 1 月 28 日付けで、「野菜類、花き類」に農薬登録が拡大された。

なお、本剤を使用する際は、定められた使用時期を厳守し、使用済みテープや設置に使用した手袋等は全量を販売店に返却するなど、取り扱いに十分注意する。

## 4. 成果の要約

いちご栽培において、ラノーテープを 1 畝あたり 1 本設置することによって、オンシツコナジラミの密度を長期的に抑制でき、殺虫剤の使用回数を大幅に削減することができる。



写真-1 ラノーテープの設置状況

表-1 殺虫剤使用状況

試験区			対照区		
処理日	薬剤名	処理量	処理日	薬剤名	希釈倍率
9月21日	ラノーテープ	60m/a	10月21日	アセタムプリド水溶剤	2000倍
			2月12日	フルハネト水和剤	8000倍
			2月26日	ヒメトロジン水和剤	3000倍

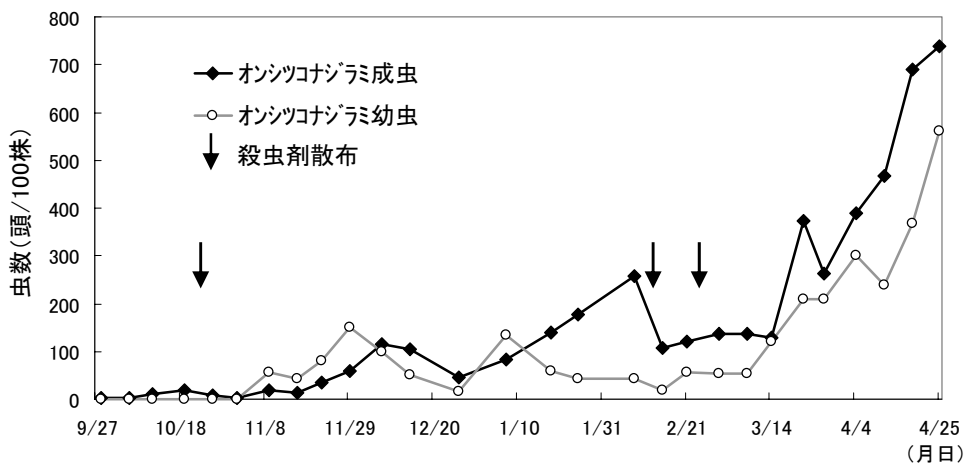
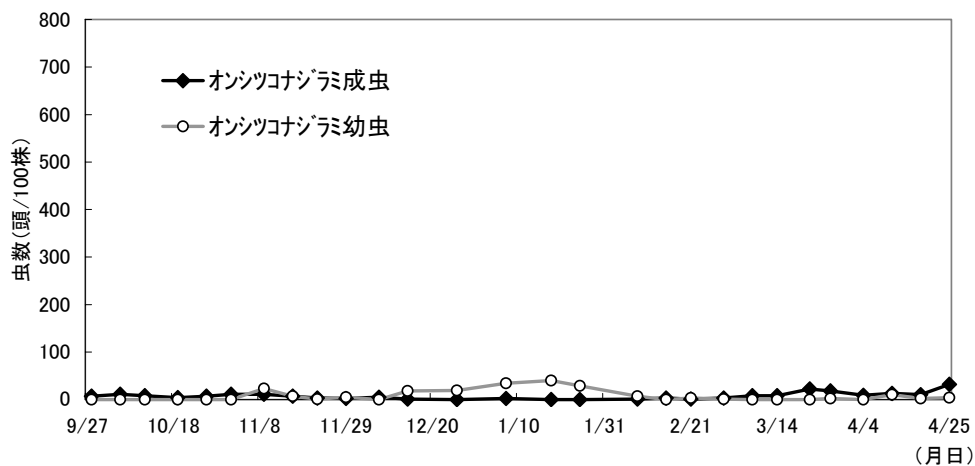


図-1 いちご栽培におけるオンシツコナジラミの発消長(上:試験区、下:対照区)